

まだまだ暑い日が続いていますが、暦の上では少しずつ秋が近づいています。
秋が近づくと思い出す、ちょっとほほえましい諏訪の昔話をご紹介します。

「神無月と神在月」

全国の神様が出雲の国に集まるため、多くの地域では神様がいなくなる 10 月を「神無月」と呼んでいます。

ところが、私たちの住む諏訪地域には少し違った言い伝えがあります。

諏訪もまた、出雲と同じ「神在月」だったのです。

毎年 10 月になると神様たちが出雲に集まり
大切な話し合いを開きます。

しかし、その年は諏訪の神様だけがなかなか姿を
見せませんでした。

心配していると、突然巨大な龍神さまが現れました。

諏訪の龍神さまはあまりにも大きくて、頭は出雲についていても長い体はまだ途中にあり、尾は諏訪湖の
ほとりの松の木(現・下諏訪町高木)にかかっているほどでした。

神様たちは驚き、「それほど大きな体なら、これからは無理に出雲まで来なくてもよい」と言ったそうです。



そして、話し合いの内容はあとで知らせることになりました。

こうして龍神さまは諏訪の地に残ることになり、
諏訪も出雲と同じく神無月ではなく神在月にな
ったという言い伝えがあります。



真偽はともかく、諏訪らしい壮大なお話ですね。

諏訪湖や御神渡し、そして諏訪大社。

私たちの身近な風景が、昔の人たちには
龍神様の姿として見えていたのかもしれません。



日々忙しく過ごしていると、地元に残るこうした昔話に触れる機会は意外と少ないものです。

まだまだ暑い日が続きますが、シルバーウィーク、秋の行楽シーズン、少し足を止めて諏訪大社や諏訪湖を
眺めながら、龍神さまの姿を想像してみるのも楽しいかもしれません。

私たちも地域に伝わる物語や文化を大切にしながら、地域に根差した代理店であり続けたいと思います。

